



栃木県神社庁長
雄琴神社宮司 黒川 正邦

天皇陛下におかれましては、御即位三十年をお迎えになられましたこと、皆様と共に心よりお祝い申し上げます。
常に国民の安寧をお祈り下さり、ご公務の一つ一つにお心をお込めになさり、世界平和を願われる天皇皇后両陛下のお姿に、心を打たれるのは私だけではないと思います。

「ご苦労も多かったと思いますが、それを乗り越え、良い生活を築いていかれるよう願っています。」
「ここまで大変でした。復興が少しでも進むよう願っています。」
「ずいぶん寂びしかったです。どうぞお大事に。」

先にご上げたお言葉は、昭和聖徳記念財団発行の「昭和」の記事で目にした、東日本大震災被災者への七年間の苦労を労われた両陛下のなんとも温かいお言葉です。
過日の西日本豪雨災害の被災者へも、さぞお心を配られていらっしゃるかと推察致します。
そして、こちらも同じ記事の中ですが、

「皆さん方の技術で世界が幸せになれるように。」

これは、技術国でもある日本の工業を支える町工場の職人さんへのお言葉です。

自身が苦勞して身に着けた技術が、世界を幸せにする。なんとも力が湧き出るお言葉ではございませんか。

国民の衣食住の根幹をなす、農林漁業の従事者へも同じく励ましの言葉を下さっております。未来を担う若者達にも同様です。

皇太子殿下も両陛下のお姿に「深い感慨と敬意」というお気持ちを表されています。

世界一の伝統を誇る我が国の御皇室です。

このように、心を繋ぎ伝えて行くことが、伝統を築いて行くことなのかもしれません。

本年は近代国家を形成された明治の御代より数えて、一五〇年の嘉節の年でも御座います。

明治天皇の思召しにより、「全国に天照大御神の御神徳を漏るる事無く落つる事無く頒ち配らん。」として、廃止されていた御師の代わりに府県庁を通じて神宮大麻は全国に頒布されました。時代によりその役割は、神宮神部署かんべしよ、全国神職会、神社本庁と変わりましたが、現在も各地域の神社を通じて神職や氏子総代・御世話人の方々によって、神宮の御札（神宮大麻）がお届けされております。

方法は変われども、天照大御神の御神徳を広く遍く国民が享受出来るよう、地元の氏神様の御神威を漏れなく氏子の皆様が受けられるようとする、先人達からの心は伝統そのものでありましょう。

国民の安寧をお祈り下さる御皇室と、伝統を繋いで戴いた多くの先人に感謝申し上げますと共に、氏子の皆様が伊勢の大神様と氏神様の御加護を授かり、穏やかにお過ごしになられることをお祈り申し上げます。

御大典 記念事業例

来たる御大典では、全国で記念事業が計画されております。
写真は記念事業の例でございます。
皆様の御社でも奉祝記念事業を行ない、後の世に継承しましょう。



社殿の改築



社務所の改築



鳥居の改築



摂社・末社の改築

平成の御大典 記念事業

事業内容	件数
社殿（本殿・拝殿等）の改築	55
社務所の改築	16
玉垣の改築	6
摂社・末社の改築	5
手水社の改築	5
鳥居の改築	4
神楽殿の改築	2
神饌所の改築	2
神門の改築	1
その他建造物の新築・改築	5
記念植樹	46
境内整備	32
記念碑	27
祭典・神事奉納	3
その他（奉納含む）	
灯籠	6
狛犬	4
太鼓	3
幕	3
のぼり旗・ポール	3
祭器具	2
掲示板・看板等	2
畳替え	1
その他	1



手水舎の改築



神楽殿の改築



神饌所の改築



神門の改築



灯 籠



記念植樹



狛 犬



記念碑



太 鼓



幕



祭典・神事奉納



祭器具



胡床



のぼり旗・ポール



掲示板・看板等



賽銭箱



畳

国内宗教視察

栃木県神社庁教化委員会、平成二十九年国内宗教視察研修にて三月六日より二泊三日の日程で岡山県を訪問し、小幡教化委員長を始め十三名の参加にて岡山県内の社寺の視察を実施しました。

三月六日

東京駅新幹線ホームに八時集合、八時三十分発のぞみ十七号にて岡山県に出発しました。正午前に岡山駅に到着、天候に恵まれ快晴ではありませんでしたが三月では異例の寒さの中、バスに乗り換えて最初の視察地・黒住教本部に移動となりました。

バスにて岡山市西部の神道山の山頂近くにある黒住教本部に到着、当日は本部閉庁日だった為一般の参拝者は疎らではありませんでしたが、黒住教本部公室長 宗忠神社宮司・黒住忠親氏の出迎えがあり、挨拶の後に大教殿にて正式参拝を致しました。その後説明を交えな



黒住教本部・大教殿



から黒住教教祖由来の神事を執り行う日拝所につばいじよに移動、日拝と御陽気ごようき修行についての説明を頂きました。

本庁包括下の神社に奉職する神職にとって、教派神道・神道十三派の一つとして数えられる黒住教は、普段から接する事の無い我々にとつてどのような教化育成を志しているのかを見聞するいい機会となりました。

次に予定を変更して黒住教教祖生誕の地大元おおもとに鎮座する宗忠神社



を参拝、現在の神道山遷座前の元本部であり境内も広く立派な御社殿の鎮座する厳かな神社でありました。



三月七日

岡山市内のホテルを出発、最初に備中国一之宮・吉備津神社にて正式参拝致しました。忙しい中、藤井宮司に説明を頂き、職員の案内にて、国宝の本殿及び拝殿を拝観、坂道を利用した国内でも珍しい廻廊を通りながら御釜殿に案内の後に鳴釜神事に参列致しました。

次に備前国一之宮・吉備彦神社に自由参拝、広い境内を有する神社で、本殿・渡殿・祭文殿・拝殿と連なる形になっており、縦長の栃木県



最上稲荷・仁王門



最上稲荷本殿

内では見ることに珍しい社殿の形式を見る事ができました。次に最上稲荷山妙教寺に向かい、昔ながらの門前通りを抜けて参拝し、次に吉備津彦神社と同じく備前国一之宮・石上布都魂神社に向かい、山中の険しい参道を上りながら中腹の神社へと参拝、山頂



吉備津神社



長さ 400m の廻廊

に本宮（明治の大火で焼失した旧本殿、磐座いわくらがあり禁足地）があるとの事で、健脚の者が何名か参拝を致しました。



石上布都魂神社



石上布都魂神社本宮への参道

三月八日

湯郷温泉ゆの郷を出発し、日程最後となる美作総社宮みまさかへと向かいました。美作総社宮、正式名称は総社との事で、この地方独特の中山造で大変立派な造の本殿・拝殿を有する神社でありました。古代の国司に由来する国内神社巡拝を効率化するためにできた国内の神を合祀した総社に当たり、美作國の総社として創建されたとの事。生憎の雨模様でしたが拝殿・本殿廻りを一周して見る事ができ、毛利元就が再建し、何回かの修理を重ねながら現在に伝えられている社殿を近



くから拝観できました。

美作総社宮を後にし、岡山駅に向かい帰路につき、今回の国内宗教視察は終了となりました。

結びに貴重な視察の機会を設けて頂きました栃木県神社庁黒川片長をはじめ教化委員会の皆様方に感謝申し上げます。

（三祖神社 宮司 阿久津 喜大）

この度の西日本豪雨災害に際し
衷心よりお見舞い申し上げます。



那須御用邸勤労奉仕

七月三日、毎年恒例となっている那須御用邸勤労奉仕を行いました。本年は例年より早い梅雨明けとなり、当日は夏本番を思わせる暑さの中、荒井和宏教化副委員長を団長とし三十四名の奉仕者が集まりました。

天皇陛下におかれましては、来年四月三十日に御譲位を控えておられます。今夏的那須御用邸での御静養は大変思い出深いものになるのではと思っておりました。しかし、西日本豪雨による甚大な被害により、今夏的那須御用邸での御静養は取りやめになりました。両陛下は猛暑の中で六千人を超える国民が、不自由な避難所生活を余儀なくされていることを案じての御決断でした。

那須御用邸は、現存する御用邸の中で最大の敷地面積であり約六六〇ヘクタール。東京ドーム二六〇個分の敷地面積を誇ります。那須御用邸には本邸と付属邸があり、本邸には両陛下、付属邸には皇太子御一家がお使いになられております。秋篠宮御一家が滞在される時は「供奉員宿泊所」という施設を御利用されていらつしやるそうので、誠に恐縮ながら今回我々奉仕員も待機所として使わせて頂きました。

もともと那須御用邸は敷地約一二二五ヘクタールもありましたが、天皇陛下即位二十年を機に、「豊かな自然を維持しつつ、国民が自然に触れる場に」という陛下のお考えを受けて、半分の五六〇ヘクタールが環境省へ移管され、現在「那須平成の森」として開園されております。

当日の奉仕活動は本邸玄関前の除草作業を行いました。猛暑の中の作業でしたが奉仕者全員が一筋に奉仕したことにより作業終了の頃には綺麗になり、清々しい気持ちになりました。作業後は御用邸

職員の方に敷地内の説明を頂き、平成という元号での那須御用邸勤労奉仕を無事終了することができました。

(星宮神社

禰宜 小林 誉史)



世界文化遺産 『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群（中）

栃木県埋蔵文化財センター副主幹兼普及資料課長
延喜式内大前神社権禰宜 篠原祐一

島全体を覆う巨大な一塊の杜^{ひとかたまり}

は、大正十五年に天然記念物に指定され、亜熱帯植物のビロウやオタナワタリの北限です。参道の先には、木の壁の中に開いた穴が、異界へ入り込む不安と躊躇を思わせる拒絶感を湛^{たた}えて存在します。そして、参拝者は吸い込まれるように一人ずつ消えて行くのです。

中に入ると、暗くむっとした湿度を感じます。目が慣れてくると、落葉と小石が敷き詰められた、存外に広い空間があり、奥には小さな涸れ池があることが分かります。光がふりそそぐ一段高い場所には、宗像沖ノ島沖津宮^{おきつみや}の社殿が目に飛び込み、深遠の御稜威^{みりょうい}を放っています。



宗像沖ノ島1号遺跡（平成8年撮影）

少し進み参道を外れると、オオミズナギドリが掘った巣穴が落とし穴となつて足を掬^{すく}われ、あちらこちらで参拝者のうめき声が聞こえます。しかし、その声は感動とも歓声とも言える声に変わります。

す。なぜなら、この場所こそが、沖ノ島で奈良時代の祭祀に使われた道具が撤下された、一号祭祀遺跡^{さいし}なのです。

古墳時代の後半、鏡や剣、下駄^{げた}に至るまで、神に捧げる贖^{あがな}い物に「玉石」で作り奉る祭祀がありました。「玉」^{ぎよく}は本来、神仙世界にあるものですが、稀に人間界に産出します。そして、古代中国では、蒼玉^{そうぎよく}をもつて天神をまつると定められてました。そこで、「玉が採れる場所・神聖なところ、玉と共に産出する他の石材も玉の一種と扱われ、その中の軟質石材で様々な器物を作りました。これを石製祭具といひます。

この石製祭具は、通常、五世紀に隆盛し、六世紀後半までには用いられなくなるのですが、九州では、なぜか八世紀になってから隆盛を迎えます。そして、その中心となるのが宗像沖ノ島祭祀です。

これは、尼子娘^{あまこのいらつめ}が鍵となり、この人物は、宗像君徳善^{むなかたのきみとくぜん}の娘で、大海人皇子^{おほあまのみこ}（天武天皇）の嬪^{ひん}となり、高市皇子^{たけちのみこ}を生みます。高市皇子は、母が地方豪族の出身なので天皇にはなれませんが、壬申の乱で大海人皇子を支えて活躍し、持統天皇の世では太政大臣^{だいじようだいじん}（今の総理大臣）となりました。

奈良時代の直前、他の地域で失われた形代^{かたしろ}を用いる祭祀は、宮中で綿々と伝承されていきました。海外交渉も盛んとなる時期、海上航路にある母の実家宗像氏は、重要で頼れる存在です。そこで、宗像の神を、宮中に伝わる古儀、形代

祭祀で祀りました。これが、九州北部地域に遅れて流行する石製祭具の理由と考えられるのです。

一号遺跡は、八世紀から九世紀にかけて営まれました。二十四四方くらいの範囲に、土器（奈良三彩・須恵器・土師器）・銅製品（舟形・機織具・円板・鏡・壺など）・石製品（舟形・馬形・鏡形・人形・勾玉・子持勾玉）など、祭祀で供えられた多彩な品々が、大量に置かれています。発掘調査は、あまりの量のため、一部しか掘っていません。土器などは、口を上にしたまま、今も奈良時代に置かれたままの状態なのです。

暗さに目が慣れてくると、自分が石製舟形を踏んで立っていることに気が付き、思わず飛び退きます。これらは、皆、以前行われた発掘調査で、国宝になっっているものなのです。

こうして、不意打ちのような衝撃の後、陽射しで白く浮き出たような社殿に参進します。

社殿は、一段高い場所に、石垣を築いて設けられた木造銅板葺神明造の本殿で、拝殿が併設されています。社殿は西南西向きで、十七世紀半ばに建立されたとき、昭和七年までに現在の姿となりました。社殿の石垣基壇と参道の石垣は分離し、両側の潤れ池を繋ぐ水路となり、人ひとりが歩ける幅の石橋が架かっています。

凜とした空気の中、神職と数人が昇殿し正式参拝を行います。異空間の中、田心姫神を拝した高揚感の後、此处は国史跡だと思うのは、悲しい性と思う次第です。

沖津宮は後背の巨岩が屋根を覆うような迫力で、社殿の両側は巨石の壁となっています。社殿に向かって左にある巨岩は、B巨岩と呼ばれ、小型の石の上に巨岩が

乗っているため、L字形の空隙が出来ています。ここが、御金蔵と呼ばれる四号遺跡・四号洞穴遺跡で、五世紀後半から七世紀に使用された獣帯文方格規矩四神鏡や子持勾玉、石製祭具（人形・馬形・舟形など）が見つかりました。このように巨岩が廂になったり、屋根になったりする環境にあるものを岩陰祭祀遺跡と分類します。

沖ノ島は、遺跡を岩上（四世紀後半から五世紀）、岩陰（五世紀後半から七世紀）、半岩陰・半露天（七世紀後半から八世紀前半）、露天（八世紀から九世紀末）に分類しています。今回の世界遺産の調査で、この考え方は根本的に見直す必要が出てきましたので、後でお話しします。

御金蔵を過ぎ、山道を十ほど登ると、五号遺跡があります。こ



5号遺跡（土器配置の復原）



上 金銅製雛形琴 下 金銅製雛形紡織具

こは半岩陰・半露天祭祀遺跡で、金銅製龍頭や金銅製雛形五弦琴、金銅製雛形紡織具など、伊勢の神宮御神宝・皇大神宮御料と比較される品々がみつかりました。

（以下次号「宗像・沖ノ島と関連遺産群」前世界遺産推進会議専門家会議委託研究員）

平成二十九年 各社の正式参拝

29	年	正式参拝神社	参拝団体名	人数
4	月	神宮（内宮）	明王院	40
5	日	久能山東照宮【静岡県】	下野國一社八幡宮	16
23		大山阿夫利神社【神奈川県】	今宮神社氏子総代会	30
26		彌彦神社【新潟県】	栃木銀行（友好会）	40
14		岩木山神社【青森県】	清原地区神社総代会	62
21		諏訪大社上社本宮【長野県】	株式会社 北研	66
25		熱田神宮【愛知県】	栃木県神社南那須氏子総代会	200
4		大山祇神社【愛媛県】	中嶋神社	27
8		厳島神社【広島県】	中嶋神社	27
9		神宮（内宮）	宇都宮二荒山神社	8
9		乃木神社【東京都】	栃木県神社庁教化委員会 皇居勤労奉仕団	25
14		真山神社【秋田県】	栃木県神社北那須支部 神社総代会	40
15		伊弉諾神宮【兵庫県】	栃木県神社庁芳賀支部	7
7		鹿島神宮【茨城県】	栃木県神社庁上都賀支部	25
8		神宮（内宮・外宮）	東京シユタイナーこども会	30

29	年	正式参拝神社	参拝団体名	人数
8	月	熱田神宮【愛知県】	八幡台認定こども園	25
20	日	諏訪大社上社本宮【長野県】	下野氏子総代会	35
21		静岡浅間神社【静岡県】	鷺宮神社氏子総代会	35
31		大山阿夫利神社【神奈川県】	愛宕神社氏子総代会	26
2		神宮（内宮）	宮島町自治会	6
3		唐澤山神社【栃木県】	栃木県神社氏子青年連合会	40
3		靖国神社【東京都】	白鷺神社氏子総代会	22
4		鶴岡八幡宮【神奈川県】	うしとら会	12
8		富岡八幡宮【東京都】	南那須地区総代会	40
21		神田神社【東京都】	南押原氏子総代会	26
30		武蔵一宮氷川神社【埼玉県】	黒磯神社大世話人会	20
3		富岡八幡宮【東京都】	朝日森敬神婦人会役員 及び会員有志	35
5		羽黒・出羽神社【山形県】	日枝神社総代会	24
15		羽黒・出羽神社【山形県】	磐裂根裂管内神社	80

//	//	//	//	//	30	//	//	//	//	//	//	//	//	//	29	年
//	//	2	//	//	1	//	//	//	11	//	//	//	//	//	10	月
22	15	8	28	26	18	7	7	7	5	31	30	26	26	26	21	日
鎮守氷川神社【埼玉県】	(宇)二荒山神社 【栃木県】	神宮(内宮)	須賀神社【栃木県】	神宮(内宮)	神宮(内宮)	三峯神社【埼玉県】	三峯神社【埼玉県】	新海三社神社【長野県】	出雲大社【島根県】	度津神社【新潟県】	白山神社【新潟県】	陸奥一之宮都々古別神社【福島県】	奥州一之宮都々古別神社【福島県】	三峯神社【埼玉県】	一之宮貫前神社【群馬県】	正式参拝神社
栃木県神社庁役職員	神さまのおうちプロジェクト	栃木県市長会	高麗神社	唐澤山神社崇敬者 川久保真治他三名	栃木県建設業協会 那須烏山支部	高根沢町鎮座十三神社 総代連合会	塩竈神社氏子会並びに 温泉神社氏子会	鎮守を守る総代の会	沼錚神社氏子崇敬者	栃木県神社庁下都賀支部	栃木県神社庁下都賀支部	馬頭地区氏子総代会	馬頭地区氏子総代会	栃木県神社庁総代会北那 須支部二支会	加園地区神社氏子総代会	参拝団体名
20	10	31	10	4	15	40	35	40	30	50	50	35	35	40	21	人数

※栃木県神社庁申請による正式参拝

//	//	//	//	//	//	//	30	年
//	//	//	//	3	//	//	2	月
30	27	13	7	6	22	22	22	日
(日)二荒山神社 【栃木県】	富士山本宮浅間大社 【静岡県】	一之宮貫前神社 【群馬県】	吉備津神社【岡山県】	黒住教本部【岡山県】	神宮(内宮)	武蔵一宮氷川神社 【埼玉県】	川口総鎮守川口神社 【埼玉県】	正式参拝神社
関東地区女子神職協会	浅間神社	浅間神社	栃木県神社庁教化委員会	栃木県神社庁教化委員会	唐澤山神社吉水崇敬会	栃木県神社庁役職員	栃木県神社庁役職員	参拝団体名
60	10	17	14	13	8	20	20	人数

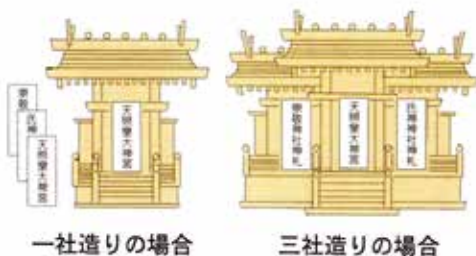


神棚のまつり方

（神棚の設け方）

家の概ね中心で、明るく清らかな所に、南向きまたは東向きで、高い位置で尚かつ家族みんなが毎日拝みやすい所が最も良い場所と言えますが、そうした場所におまつりできない場合には、最良と思われる場所におまつりしましょう。

また、新たに神棚を設ける場合には、宮形を据え、神職にお祓いをしていただき、それから神棚にお札をおさめます。



お米・お酒・塩・水を一台に供える例



お米・塩・水を一台に供える例

（御神札のまつり方）

三社造りの場合は、中央に神宮大麻、向かって右側に氏神様、左側に他の神社の御神札をおまつりします。

一社造りの場合は、奥より他の神社、氏神様、一番表に神宮大麻をおまつりします。

また、御神札の前には幣束をお供えします。

（神饌）

神饌は毎朝、米・塩・水を三方または折敷（とじめ）を手前に向ける）にのせてお供えします。

毎月一日・十五日や、氏神様の祭日、その他一家の記念すべき日には、御神酒・野菜・果物

等もお供えしましょう。

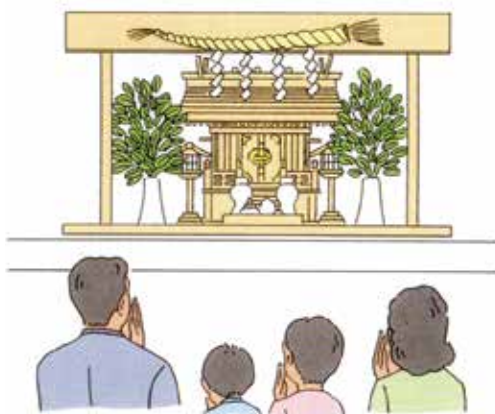
また、季節の初物も、お供えした後、おさがりとして、家族一同でいただくようにしましょう（お参りの仕方）

神饌をお供えして、神社にお参りするときと同じく、二拝二拍手一拝にてお参りします。

朝・夕には感謝をこめてお参りしましょう。

尚、お稻荷さん・水神さま（井戸）・竈神さま（勝手）・廁神さま（お手洗い）等にも幣束をお供えし日々のご加護を祈りましょう。

その他不明なところは地元の氏神神社の神職にご相談下さい。



● 神宮大麻 ●

伊勢の神宮は、三重県伊勢市に鎮座しています。正式には「神宮」といい、親しみを込めて「お伊勢さん」とも呼ばれています。神宮は、皇室の祖先神である天照大神をおまつりする皇大神宮（内宮）と、その大御神の食事を司り、衣食住をはじめ私たちの産業すべてをお守りくださる豊受大神をおまつりしている豊受大神宮（外宮）を中心に、別宮・摂社・末社・所管社を含め百二十五のお宮から成っています。

神宮大麻は、伊勢神宮のお神札のことで、「お伊勢さん」「お祓いさん」などとも呼ばれてきました。

お神札には、「天照皇大神宮」の神号に神璽が押され、毎年奉製され、氏神さまを通じて各家庭に頒布されています。

じんぐうたいま 神宮大麻をおまつりしましょう

喪中の時の正しい 神棚のまつり方

同居していた人に不幸があった場合には、喪に服し故人のまつり（忌）に専念するため神棚に白紙を貼り、五十日あるいは四十九日までの間は毎日のおまつりはひかえます。

そして、四十九日あるいは五十日たったら忌み明けとして、ただちに白紙をはがして、御神札・御幣束をおまつりし、普段通りのおまつりを斎行するようにしましょう。忌の期間が正月をはさむ場合は、忌が明けてから氏神さまから御神札を受け、神棚におまつりしましょう。

五十日祭や四十九日供養が過ぎてもおまつりしないまま、一年中神棚を放っておくことが絶対にないようにくれぐれも注意

し、一日もはやく日常の生活に復帰出来るように心掛けましょう。

尚、服忌及び服忌の期間について次に記しておきますので参考にしてください。

ぶつき（ぶくき） 服忌とは

「服」とは喪服を着る事つまり喪に服する事、「忌」は人の死を畏れ忌む事を意味します。ご家族が亡くなった時、一定の期間、身を慎みます。

この期間中を「服忌」「忌服」と言い、神社への参加、お祝い事等を遠慮するのが一般的です。立場上やむなく参加の場合は、忌明けのお祓いを神社で受けて下さい。

その期間は、ご自身と、亡く

なった方との血縁がどうであつたかによつて、変わります。地域の習慣によつて異なる場合がございますので、地元の神主に聞いて下さい。

一、父母、夫、妻、子…

五十日

二、祖父母、孫、兄弟姉妹

…三十日

三、曾祖父母、曾孫、

甥姪、伯叔父母…十日

四、高祖父母、玄孫、兄弟

姉妹の孫、従兄弟、

従祖父母 …三日

五、配偶者の親族について

は一項ずつ繰り下げた日数による。

お正月は どうするの？

亡くなってから五十日以上を経過している場合等は、通常通り門松、しめ飾りをお飾りして下さい。

また、新年の新しいお札をお受け下さい。



